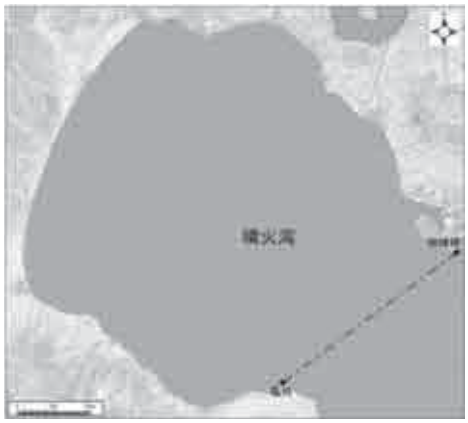
ジオパーク通信

洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会だより

第47号
洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会
(洞爺湖町役場ジオパーク推進課内)
☎(0142)74－3015

ジオパークとは「地球と生命とのつながりを楽しく学べる地域」のこと。
洞爺湖有珠山ジオパークは洞爺湖や有珠山を中心に「変動する大地との共生」を学べる地域です。



地球岬と塩崎を結ぶ線の内側が「噴火湾」（環境省HPより転載）

有珠山山頂から見える噴火湾（右）と伊達市の街並み

伊達市、豊浦町、洞爺湖町は、噴火湾に接しています。普段、海を目にする方も多いのではないでしょうか。

一番身近な海であるこの噴火湾は、実は多くの特徴がある不思議な海でもあります。そのいくつかをご紹介します。

①「噴火湾」でも、「噴火でできた海」ではない！

「噴火湾」という名前がついているので、大昔の火山の火口だったのでは？と思う方もいるかもしれません。

しかし、もしも噴火でできたとすると、周りに火山灰などの噴出物が大量に積もるはずです。今のところ、このような噴出物は見つかっていないので、噴火湾は噴火でできた海ではない、と考えられています。

噴火湾の名前の由来は、1796年に日本近海に探検にやってきたイギリス人、ウィリアム・ブロートン船長が、湾から「３つもの火山が見える」この海を「Volcano Bay（ボルケーノベイ）噴火湾」と名付けたことによります。

②季節で海水が入れ替わる！？

春、北海道の北から流れてくる冷たい水（親潮水）が、日高沿岸を通って噴火湾に入ります。秋冬になると、今度は南から流れてくる温かい水（津軽暖流水）が、津軽海峡を通って入ってきます。

このように、冷たい水と温かい水が季節で入れ替わり、さらに湾の中で混ざり合うという場所は、世界的にも珍しいと言われています。

③川からの雪解け水で、オリジナルブレンド海水に！

雪解けの季節になると、長流川・遊楽部川・貫気別川・長万部川などの川から、通常期の約３倍もの水が海に流れ込みます。山や森、農地を流れてくるこの雪解け水には、たくさんの栄養が含まれていて、湾内で海水と混じり合い、噴火湾オリジナルブレンドの海水を作ります。その結果、海の中で植物プランクトンが増え、魚やホタテを育てます。陸と海は、川という水の流れで結びついているといえます。

噴火湾沿岸には、海の恵みに支えられた人々の暮らしがわかる、縄文遺跡や史跡がたくさんあります。ぜひ訪れてみてください。

参考文献　「噴火湾の物理環境」『沿岸海洋研究ノート　第19巻』大谷清隆　1981年
「融雪と漁業生産をつなげる陸海関連：噴火湾の例」『低温科学74（2016）』中田聡史他　2016年